

ぐんまごうきやうがくだん
群馬交響楽団
 Gunma Symphony Orchestra

1945年戦後の荒廃の中で文化を通じた復興を目指して創立、1955年「群響」をモデルに制作された映画「ここに泉あり」が公開され、全国的に注目を集めた。1947年から始めた移動音楽教室は、2022年度までに延べ646万人を超える児童・生徒が鑑賞した。2014年6月には定期演奏会が500回に達し、2020年に創立75周年を迎えた。

また2019年9月に開館した「高崎芸術劇場」に活動拠点を移し、2023年4月に就任した飯森範親常任指揮者のもと、さらなる演奏活動の飛躍・向上を目指している。

プロフィール

指揮：鈴木織衛 Orié Suzuki, Conductor



東京藝術大学指揮科、同大学院卒。遠藤雅古、松尾葉子両氏に師事。藝大在学中にピアニストとしてデビュー。その後は、日本屈指のオペラ団体・二期会において、数々の作品に指揮者、合唱指揮者、コレペティとして参加。また青田正子、錦織健氏など人気声楽家とも多数共演する。1996年ベルリンでのドイツ室内管弦楽団定期演奏会でコンサート指揮者デビュー。以来、日本各地のオーケストラと共演を重ねている。2018年にはオーケストラ・アンサンブル金沢とヴェルディの歌劇「リゴレット」を上演し、好評を得る。2010年より2022年8月まで、オーケストラ・アンサンブル金沢専任指揮者を務めた。また、ポップス等クラシック以外のアーティストにも信頼が厚く、森山良子、加藤登紀子、秋川雅史、岩崎宏美、日野皓正、レ・フレールをはじめ多くのコンサートを指揮、レコーディングにも参加している。東京藝術大学指揮科講師。

指揮：和田一樹 Kazuki Wada, Conductor



東京都中野区出身。尚美学園大学作曲コース、東京音楽大学指揮科を卒業。2015年第6回ブカレスト国際指揮者コンクールにて準優勝。2017年にヤシ・モルドヴァ・フィルハーモニー管弦楽団を指揮しヨーロッパデビュー。楽団の総監督より「最年少最優秀客演指揮者」の称号を受けて以降、毎シーズン客演している。ドラマ「のだめカンタービレ」、映画「マエストロ!」等で指揮指導を担当。これまでに、群響、都響、新日本フィル、東フィル、日本フィル、神奈川フィル、東京佼成ウインドオーケストラなどと共演、国内外で指揮活動を展開している。

知ってますか？

10月1日は「国際音楽の日」です

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることにしました。日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

実施日程

- 2023.10.16 月 秩父市立南小学校
- 2023.10.17 火 羽生市立手子林小学校
- 2023.11.13 月 上三川町立上三川小学校
- 2023.11.14 火 佐野市立赤見中学校
- 2023.11.15 水 小山市立旭小学校
- 2023.11.16 木 鹿沼市立石川小学校
- 2023.11.17 金 那須塩原市立共英小学校

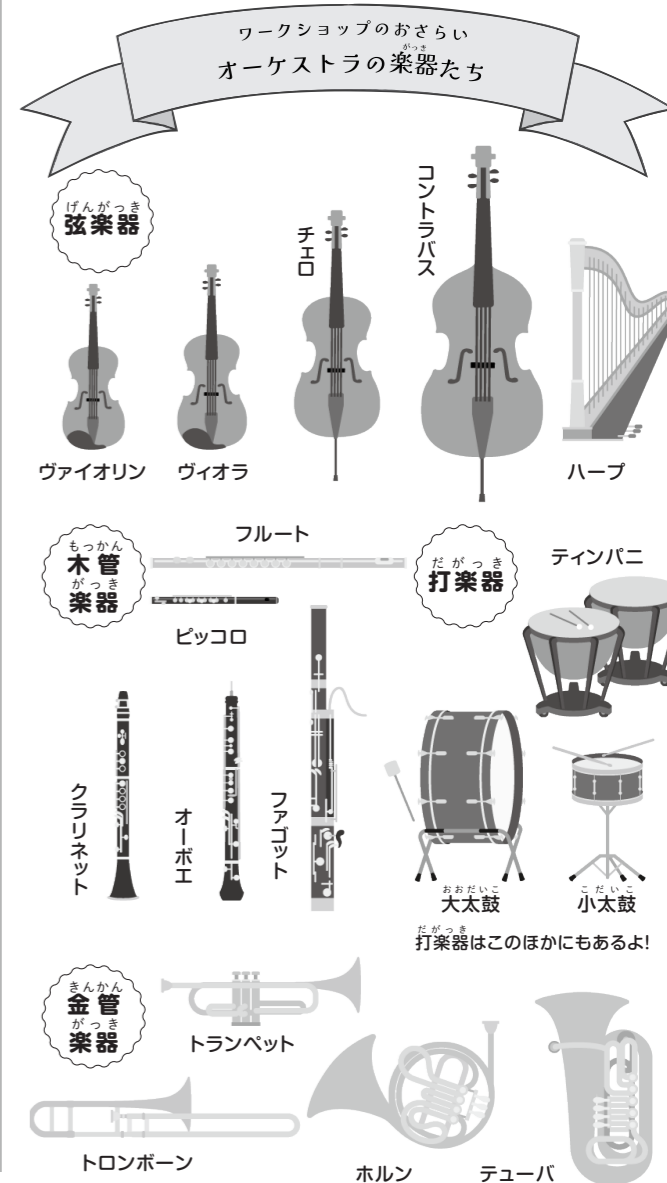
令和5年度 学校巡回公演事業

群馬交響楽団
 オーケストラ公演



—学校巡回公演事業—

小学校・中学校等において文化芸術団体による実演芸術の巡回公演を行い、子供たちが質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保するとともに、子供たちの豊かな創造力・創造力や、思考力、コミュニケーション能力などを養い、将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造に資することを目的としています。ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演においては、子供たちが参加できる工夫を行います。



きょくもくしやうかい
♪ 曲目紹介 ♪

ロッシーニ／歌劇《ウィリアム・テル》序曲 から「スイス軍の行進」

ロッシーニ(1792-1868)は、イタリア・オペラの作曲家の中でも最も人気のある作曲家でした。この中世スイスの英雄がテーマの戯曲をもとに作曲されたオペラ《ウィリアム・テル》は、1829年に発表された作品です。序曲は「夜明け」「嵐」「静寂」「スイス軍の行進」の4つの部分からなり、本日はトランペットのファンファーレから始まる大変有名な4つ目の部分が演奏されますが、これはスイスに平和をもたらした国軍の行進と民衆の歓喜の様子が描かれています。

シュトラウス二世／ワルツ「春の声」 作品410

「ワルツ王」ヨハン・シュトラウス(1825-1899)は、同名の父ヨハン(1804-1849)と区別するため、シュトラウス二世と呼ばれています。シュトラウス一家は19世紀後半のウィーンの舞踏会や音楽祭には欠かせない存在でした。ワルツとは、18世紀後半に大衆の間で始まった3拍子の踊りの音楽です。この作品は春の喜びにあふれたワルツで、1883年に初演されたものです。

大橋晃一／《草津節》の主題による楽器紹介曲

群馬交響楽団の本拠地である群馬県には温泉地が約100カ所あり、その中でも草津温泉は「日本三名泉」にも数えられる名湯です。草津温泉は高温であるため、お湯を冷ますために

板でかき回して適温にする共同作業「湯もみ」が行われます。その「湯もみ」に合わせて歌われる民謡・作業唄が《草津節》で、1918年頃から歌われています。この曲は《草津節》のモチーフを用いて作曲されました。木管楽器、弦楽器、金管楽器、打楽器の順に、各楽器を紹介しながら進みます。様々な楽器の音色、セクションでのアンサンブルを聴き比べてみましょう。また《草津節》のモチーフが優雅なワルツになったり、おしゃれなジャズアレンジに変身したりしますのでおたのしみに!みなさんにも手拍子で参加していただきます。

ブラームス／ハンガリー舞曲 第5番 ト短調

ブラームス(1833-1897)は、バッハやベートーヴェンと並び、ドイツを代表する作曲家です。

ハンガリー出身のヴァイオリン奏者レマーニから演奏旅行中に教えてもらった音楽がきっかけとなり、2集21曲からなるハンガリー舞曲集を作っています。もともとは全曲ともピアノの連弾(1台のピアノを2人で演奏する)の曲として書かれていますが、多くの音楽家によって様々な編曲がなされている事からも人気が高まっています。独特の音階とテンポの緩急に特徴がある音楽です。

アンダーソン／プリंक・プランク・プルンク

アンダーソン(1908-75)は、アメリカの作曲家、指揮者です。彼は1935年からボストン・ポップス管弦楽団とともに音楽活動を行いました。その親しみやすい旋律と効果的なリズム、奇抜なアイデアと楽しい演奏効果は目を見張るべきものがあり、独創的で楽しい作品を数多く残しています。本作は全体を通じて、弦楽器はピッツィカート(弓を使わず指ではじく演奏法)で演奏されます。1951年に発表。「プランクPlank」は「板」あるいは「板の上で料理する」という意味で、「プルンクplunk」は「弦をはじく」という意味です。そこに発音上の語呂合わせで「プリंकplink」を付け加えたとされます。

ベートーヴェン／交響曲 第5番 ハ短調 作品67 第1楽章

ベートーヴェン(1770-1827)の傑作は数多くありますが、なかでもこの曲ほど有名な作品はないでしょう。とくに「タタターン」という出だしは、よく知られています。重要なことは、このリズム・パターンがすべての楽章に形を変えて出てくることで、交響曲全体の統一が図られている点です。このような徹底した例は、1807-08年に作曲されたこの《運命》以前にはありませんでした。このようにベートーヴェンの作品は、多くの新しい工夫に満ちているのです。

マスカーニ／歌劇《カヴァレリア・ルスティカーナ》から 間奏曲

マスカーニ(1863-1945)が歴史に刻んだ1曲が1890年に完成したこの歌劇です。出世作であると同時に彼の代表作で、タイトルは「田舎風の騎士道」を意味します。同年5月17日にローマで行われた初演は大成功でした。シチリアの小村を舞台とした恋愛悲劇で、日常的な題材を扱っています。実際にありそうな内容を、得てして絵空事の世界であった歌劇に取り入れた点で、この曲は歴史に名を残したのです。本日演奏される間奏曲は、村人が教会のミサに出かけて行く場面で演奏されます。落ち着いた雰囲気につつまれていますが、それはこれから起こる悲劇の前の静けさなのです。

ビゼー／劇付随音楽《アルルの女》から ファランドール

フランスの首都パリに生まれたビゼー(1838-75)は、若いころより音楽の才能に恵まれていましたが、なかなか成功には至りませんでした。その彼に、初めて大成功をもたらした作品が、1872年に発表した《アルルの女》第1組曲です。ドーデーの同名の戯曲に音楽を付けたあと(小編成用、全27曲)、ビゼー自身がコンサート用の組曲を作りました(第2組曲はビゼーではなく、親友のギロー(1837-92)の編曲)。《ファランドール》はその第2組曲第4曲。戯曲では、クライマックスとなる第3幕の、幼なじみとフレデリクの婚約の祝宴場面に出てくる、プロヴァンス地方の民謡と踊りです。

